



この調査は、SDGsの「6 安全な水とトイレを世界中に」「11 住み続けられるまちづくりを」に資するものです。

2026 年 8 月 31 日（月）
愛知県環境局環境政策部
水大気環境課生活環境地盤対策室
地盤沈下対策グループ
担当 井城、内藤
内線 3051、3052
ダイヤルイン 052-954-6224

2025 年愛知県地盤沈下調査結果について

地盤沈下とは、私たちが日々生活を営んでいる大地が、知らないうちに、徐々に広い範囲で沈んでいく現象で、過剰な地下水のくみ上げが大きな原因であることが分かっています。

愛知県では、1959 年の伊勢湾台風により広域で地盤沈下の存在が認識されたため、1961 年から関係機関と協力し、濃尾平野の地盤沈下の状況を観測・調査しています。

この度、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と協力して実施した水準測量^(注)、地下水位等の調査結果を基に、2025 年の県内の地盤沈下の状況について、以下のとおり取りまとめました。

○ 概要

県内の地盤沈下は、全般的に見て、地下水揚水量の減少に伴う地下水水位の上昇^{ようすい}により、おおむね沈静化の傾向にあります。

○ 水準測量結果（地盤沈下の状況）

2025 年の水準測量は、尾張・名古屋市地域及び西三河地域において実施しました。

＜尾張・名古屋市地域＞

前回(2024 年)の測量結果と比較した結果、有効水準点 510 点のうち 1 年間で 1 cm 以上沈下した水準点はありませんでした。

＜西三河地域＞

前回(2023 年)の測量結果と比較した結果、有効水準点 53 点のうち 1 年当たりで 1 cm 以上沈下した水準点はありませんでした。

○ 地下水位調査結果

2025 年の尾張地域及び西三河地域の地下水位は、昨年と比べおおむね同程度でしたが、東三河地域の地下水位は、昨年と比べ下降傾向でした。

○ 地下水揚水量集計結果

2025 年度の地下水揚水量は、昨年度と比べ僅かに減少しました。

(注) 水準測量：水準点間の高低差を測定し、水準点の標高を求める作業

1 水準測量結果（地盤沈下の状況）

2025 年の水準測量で求めた水準点の標高を 2024 年（西三河地域は 2023 年）と比較し、沈下状況を把握しました。

（1）尾張・名古屋市地域

- ・有効水準点 510 点のうち、1 年間で 1 cm 以上沈下した水準点はありませんでした。
- ・年間最大沈下量は、飛島村西浜地内の 0.95cm であり、最近 5 年間の最大累積沈下量は、愛西市立田町福原地内の 2.18cm でした。

（2）西三河地域

- ・有効水準点 53 点のうち、1 年当たりで 1 cm 以上沈下した水準点はありませんでした。

2 地下水位調査結果

地盤沈下と密接な関係にある地下水位の変動状況を把握するため、県内 36 か所（93 井）の地盤沈下観測所で常時監視しています。また、県内 89 井（うち有効数^{（注 1）} 77 井）の他機関設置観測井では、毎月 1 回地下水位の観測を実施しています。

2025 年の地下水位調査結果において、尾張地域（規制区域内）及び西三河地域で昨年と比べておおむね同程度でした。また、尾張地域（規制区域外）、知多地域及び東三河地域の地下水位は昨年と比べ下降傾向でした。

（注 1）有効数：調査対象井戸の変更等により前年との比較ができなかった井戸を除いた数を示す。

（1）尾張地域（規制区域内）

- ・地盤沈下観測所（23 か所）では、69 井中 49 井において水位が下降しました。
- ・他機関設置観測井では、47 井中 22 井において水位が下降しました。
- ・年平均水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

（2）尾張地域（規制区域外）・知多地域

- ・他機関設置観測井では、12 井中 10 井において水位が下降しました。
- ・年平均水位は昨年と比べ下降傾向でした。

（3）西三河地域

- ・地盤沈下観測所（7 か所）では、14 井中 8 井において水位が下降しました。
- ・他機関設置観測井では、13 井中 8 井において水位が上昇しました。
- ・年平均水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

（4）東三河地域

- ・地盤沈下観測所（6 か所）では、10 井中 9 井において水位が下降しました。
- ・他機関設置観測井では、5 井中 4 井において水位が下降しました。
- ・年平均水位は昨年と比べ下降傾向でした。

3 地下水揚水量集計結果

水量測定器の設置義務を有する区域では地下水揚水量を把握するとともに、尾張地域の規制区域では揚水許可量の遵守状況を監視しています。

2025 年度の地下水揚水量集計結果は、日平均揚水量は 685 千 m³ で、昨年度に比べ 8 千 m³ 減少しました。

(1) 尾張地域（規制区域内）

- ・日平均揚水量は 240 千 m³ で、昨年度に比べ 8 千 m³ 減少しました。

(2) 尾張地域（規制区域外）・知多地域

- ・日平均揚水量は 65 千 m³ で、昨年度と同程度でした。

(3) 西三河地域

- ・日平均揚水量は 162 千 m³ で、昨年度と同程度でした。

(4) 東三河地域

- ・日平均揚水量は 218 千 m³ で、昨年度と同程度でした。

4 今後の対応

県内の地盤沈下は、おおむね沈静化の傾向にあります。しかしながら、渇水時には^{かんよう}涵養量^(注2)の減少や揚水量の増加によって地下水位が急激に低下し、広範囲な地盤沈下の発生する可能性が依然としてあることから、引き続き地盤沈下・地下水位の監視や地下水の揚水規制等を実施し、地盤沈下の防止に努めていきます。

(注2) ^{かんよう}涵養量：降雨や河川水などが地下の帯水層に浸透した水量

5 その他

調査結果の詳細については、以下の県水大気環境課の Web ページに掲載しています。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/jibanchinka2025.html>

<参考>

- 1 愛知県では、国が策定した濃尾平野地盤沈下防止等対策要綱に基づき、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と協力して水準測量を実施しており、尾張地域の水準測量結果は名古屋市地域を含め、尾張・名古屋市地域として結果を取りまとめ、公表しています。
- 2 水準測量は基準日（尾張地域 11 月 1 日、西三河地域 9 月 1 日）を定めた調査であること及び地下水位調査は暦年の調査であることから、調査期間を暦年としています。一方、地下水揚水量調査は当該年度の揚水量を集計したものであり、調査期間を年度としています。
- 3 本調査における「尾張地域（規制区域内）」は、一宮市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、清須市、北名古屋市、豊山町、大口町、扶桑町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村の区域であり、「尾張地域（規制区域外）」は瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町の区域です。